

2. 調 査 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者にとって安心して、楽しく暮らすことのできるホームとなるよう、「生きがい」のある生活環境の提供、「なじみ」のある環境構築という理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念を職員全員が常に意識を持って日々のケアに取り組めるよう、職員ミーティングの場で、理念および理念を具体的に実践するためにはどのように取り組むのかについて話し合われている。また、理念を職員が常に意識できるよう、名札の裏に理念が記載されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当ホームは住宅街の中に位置しており、近所の方々と日常的な交流が出来る生活環境を活かし、ゴミ出し、回覧板配布、散歩時の会話などの日常的な交流を始め、町内会行事の運動会への参加、反対にホーム主催行事である花火大会に参加してもらったり、地元中学校の総合学習としての見学受け入れなどの交流を深めてきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や目的については、管理者より職員全員に伝えられている。前回の評価結果については、具体的な改善策を立て、実行に移していることは評価できる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの運営状況の報告、地域や家族からの要望を聞き入れる場として活用している。また、毎回違うテーマ（後期高齢者制度、食中毒対策、高齢者とのコミュニケーションなど）を用意し、様々なテーマについての研究発表も行っており、その会議を有効に活用していることは大変評価できる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームの運営について必要に応じて、市や区の担当から助言をもらっている。また、管理者は、地域住民に認知症について理解を得られるようキャラバンメイトとして認知症講座の開催などを行っているが、市や区との協力も得て活動を行っている。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族とのコミュニケーションは大事に考えており、できるだけ多くの家族が来訪されるよう働きかけを行なっている。家族の来訪時には、ホーム内の様子を伝えたり、また、毎月発行している家族への便りにおいてもその様子を報告している。	○	家族への近況報告時に職員の退職、異動時の案内についても家族が望んでいるケースもあり、職員の同意が得られれば家族へお知らせすることも検討いただくことを望む。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から出された意見、不満、苦情等は全職員に通知し、検討し、解決する取組みをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職等があっても、馴染みの関係が途切れないように残った職員でフォローし合い、入居者のダメージがないような配慮ができています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修には非常に力を入れて取り組んでいることは評価できる。毎月、勉強会を行い、職員が様々なテーマ（ICF、骨粗症、コミュニケーションなど）の研究発表を行っている。外部研修への参加や資格を受けることについても推奨しており、ケアマネ資格を取った職員が増えてきたことはその成果であると言える。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会があり、その中で交流し、互いのホームのサービスの質の向上に取り組んでいる。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族、職員が入居前後でコミュニケーションを取りながら、良い関係が築くことに心がけている。 ホーム内は家庭的な雰囲気を醸し出すような古い家具が置かれたり、手芸品などが飾られている。居室については、自宅で使っていた家具、調度品などを持ち込むことができ、ホームでの生活に馴染めるような取組みを行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を支援するだけでなく、利用者から人生の先輩として、昔のことや料理などを教えてもらうなどにより、お互いに支えあいながら生活を共にしていることが確認できた。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の利用者とのコミュニケーションを通じて、利用者の希望などを聞きだすよう心がけている。 家族からの希望や意向も聞きだすよう、家族とのコミュニケーションも大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見・希望を聞き介護計画を策定している。 計画については、家族にも理解いただけるよう十分に説明を行なっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の介護は介護計画を意識して行っており、その支援経過について記録されたケース記録や職員の意見、本人、家族の意向を汲み入れながら計画の見直しを行っている。 ケース記録は、医療支援、ケアの状況、生活記録が分かり易いように区分されて記入しており、介護計画の見直しに役立てていることは評価できる。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人が運営している病院との連携を取りながら、必要に応じて医療面の支援を受けることが出来ている。家族からも医療面のバックアップ体制が充実していることについては安心しているとの声が聞かれている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医からは、定期的な受診や健康管理面の支援を受けている。 管理者が看護師でもあり、かかり付け医との連携もよく取れている。		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や、家族の思いを大切にし、職員、医師と話し合い方針を決めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常の声掛けや言葉掛けから、プライバシーを損なうような点は見られなかった。 利用者が写っている書類、写真などに目隠しをするなど、プライバシーに関係する事には、対応が徹底していることが確認できた。		
21	52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の本人の気持ちや体調に配慮しながら支援している。 近くへ散歩したい利用者が出た場合などは、職員が付き添うなど、できるだけ利用者の希望を尊重し、叶えてあげられるよう、職員同士でも連携をうまく取っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを取り入れた献立作りや職員と同じテーブルで食事をしたり、楽しい雰囲気作りを心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調や都合を確認しながら臨機応変に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握し、プランに入れている。(得意な事、経験や知恵)これを日常の楽しみごとの支援に活かしている。家族の協力のもと、外出や花火大会などのホームの行事を行ない、家族との交流も図っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じ、出かけている。散歩、ドライブ、軽食など積極的に出かける事に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は鍵をかけていないが、職員がすぐに気がつくようにフロア、入り口にはブザーをつけている。さりげない声かけなど安全面に配慮し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。 1回は、消防署の協力を受け、指摘事項は改善しながら取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事や水分の摂取をチェック表に記入し、記録している。 副食3品有り、栄養のバランスを取っている。 一人一人の咀嚼や嚥下の状況に応じ、支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂と居間を別にして、利用者がそれぞれ自分の好きな場所で日中過ごすことが出来る。 共用空間は、書道、手芸品などの作品を展示したり、花を飾ったりして、ゆったりと過ごすことができる家庭的な雰囲気となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者それぞれのなじみの家具や仏壇が置かれ、自分の過ごしやい居住空間が作られている。		

 は、重点項目。